

川名康介県議会レポート

発行 / 自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

袋倉川の氾濫対策を

9月の大雨で深刻な被害

今年度末までに整備検討

南房総の発展に力を注いでいる川名康介県議(鴨川市・南房総市・安房郡選出、3期)は9月定例県議会で登壇し、県の施策について熊谷知事ら県執行部に聞きました。安心・安全なまちづくりのために川名県議は鴨川市を流れる袋倉川の氾濫対策について質問、観光振興については、観光客のニーズの変化に対応した観光地整備への県の取り組みを聞き、観光地に寄り添った対応を要望しました。川名県議の質疑と県執行部の答弁を紹介します。



登壇し、県の施策を尋ねる川名康介県議

9月定例県議会一般質問

川名議員 鴨川市東部の袋倉川では、氾濫により、工場や商店、酪農牛の牧場などにおびたらしい量の水が流れ込み、床上浸水など

によって深刻な被害に見舞われた。

この袋倉川は下流の河川改修と橋梁掛け替えを行ったものの、令和元年10月の

大雨に続いて、今回も氾濫しており、地域住民のためにも、いち早く、今後の災害を防止するための対策を取らなければならないと考

川名議員 新規就農者の確保として、定年を迎え、退職する方々にも、就業へのアプローチをすることで、幅の広い担い手確保につながるということができると考える。

また、地域においては、就農地での農業生産が円滑に始められるよう、地域特産品目の栽培技術や経営に関する実践的な研修を実施しています。今後も、市町などの関係機関と連携し、これらの取り組みを通じて、定年後の就農希望者を支援してまいります。

JA安房は令和元年より、農業元気塾を開設し、50代から60代のサラリーマンを対象に定年帰農を含めた多様な担い手の育成を通じて、農業活力を盛り上げようと、月1回土曜日に座学・圃場での実習を継続して実施している。

この講習会では、主に、県の普及員OBを講師に、土づくり、果樹・野菜の栽培をテーマに実施しているが、講師も高齢化しており、オンラインなどの教材の充実を含め、こういった取り組みには、県からの支援を要望する。

定年後に農業という選択肢を

県、就農希望者を支援

県では、就農希望者が働きながら学べるよう、県立農業大学校において、農業の基礎的な知識の習得や農作業が体験できる講座を週末に開催しています。

また、地域においては、就農地での農業生産が円滑に始められるよう、地域特産品目の栽培技術や経営に関する実践的な研修を実施しています。今後も、市町などの関係機関と連携し、これらの取り組みを通じて、定年後の就農希望者を支援してまいります。

JA安房は令和元年より、農業元気塾を開設し、50代から60代のサラリーマンを対象に定年帰農を含めた多様な担い手の育成を通じて、農業活力を盛り上げようと、月1回土曜日に座学・圃場での実習を継続して実施している。

この講習会では、主に、県の普及員OBを講師に、土づくり、果樹・野菜の栽培をテーマに実施しているが、講師も高齢化しており、オンラインなどの教材の充実を含め、こういった取り組みには、県からの支援を要望する。

えている。そこだろうかすが、袋倉川の氾濫対策について、どのように取り組むのか。県土整備部長 流域の大

半が山林で、狭隘な河道が続く袋倉川については、9月8日の記録的な大雨によって氾濫し、住宅等が浸水したほか、上流からの竹木の流入と、河岸の崩落が発生しました。

現在、橋に留まった流竹木については、既に撤去を完了しており、崩落した河岸については、応急復旧作業を行っているところです。

川名議員 加茂川河口部の堆積土砂について、効果的な撤去方法を検討すべきと考えますがどうか。県土整備部長 県では、河川巡視等により土砂の堆積状況を把握し、河川の流下能力を確保するため土砂撤去を行っており、特に加茂川河口付近では土砂の堆積が著しいことから、本年8月に川の流れを確保する

を別途対策をとりまとめるとのことだが、一刻も早く対策に着手してもらえよう要望する。

川名議員 加茂川河口部の堆積土砂について、効果的な撤去方法を検討すべきと考えますがどうか。県土整備部長 県では、河川巡視等により土砂の堆積状況を把握し、河川の流下能力を確保するため土砂撤去を行っており、特に加茂川河口付近では土砂の堆積が著しいことから、本年8月に川の流れを確保する

ため、掘削工事を実施したところですが、しかしながら、加茂川河口部は、漁港の護岸が設置されており、重機が河川へ降りられる進入路がその護岸にないことから、堆積土砂を効果的に撤去できない状況となっており、今後河口への進入路整備について検討していくこととしていきます。

●県政と鴨川市、南房総市・安房郡へのご意見をお寄せください

川名 康介 県議事務所 〒296-0001 鴨川市橋渚1481-3 TEL 04-7092-1280 FAX 04-7096-5320

旅行ニーズ多様化

ワーケーション 受け入れを支援

川名議員 今年の海水浴場の利用者が前年より少ない印象を受けたため、状況を確かめたところ、観光客のニーズの変化によって、海の家が減少していることも要因かと感じている。

海水浴場に限らず、選ばれた観光地になるためには、

こうした観光客のニーズの変化に対応した観光地整備が必要と感じている。



議場の自席で再質問を行う川名県議

また、食やスポーツなどをここでしか体験できない、付加価値の高いコンテンツにする取り組みへの支援も始めました。今後も、旅行

こうした場合、観光客のニーズの変化に対応した観光地整備が必要と感じている。

ニーズの多様化を踏まえながら、適宜、補助制度の内容容について見直しを行ってまいります。

また、こうした支援制度については、事業者等への説明会のほか、市町村や観光協会等を通じて周知しているところであり、引き続き、関係団体と連携して周知の充実を図ってまいります。

このように、観光客のニーズの変化に対応した観光地整備が必要と感じている。

観光客のニーズの変化に対応した観光地整備が必要と感じている。

訪日リピーター誘客

川名議員 インバウンド需要の獲得に向けて、訪日リピーターの確保にどのように取り組んでいるのか。

知事 数多くの外国人観光客に県内観光地を訪れていただくためには、新規の訪日観光客に加え、近年、増加傾向にある訪日リピーターへの働きかけが重要と考えています。

川名議員 インバウンド需要の獲得に向けて、訪日リピーターの確保にどのように取り組んでいるのか。

に努めているところである。

川名議員 県道鴨川保田線 保田町の井原地区では、道路の幅員が狭く、安全で円滑な交通を確保するため、0.7m幅の現道拡幅事業を実施しており、これまでに、保田側の0.4m幅区間を供用しています。

川名議員 県道鴨川保田線 保田町の井原地区では、道路の幅員が狭く、安全で円滑な交通を確保するため、0.7m幅の現道拡幅事業を実施しており、これまでに、保田側の0.4m幅区間を供用しています。

道路・橋梁整備着々と

川名議員 県道鴨川保田線 保田町の井原地区では、道路の幅員が狭く、安全で円滑な交通を確保するため、0.7m幅の現道拡幅事業を実施しており、これまでに、保田側の0.4m幅区間を供用しています。

川名議員 県道鴨川保田線 保田町の井原地区では、道路の幅員が狭く、安全で円滑な交通を確保するため、0.7m幅の現道拡幅事業を実施しており、これまでに、保田側の0.4m幅区間を供用しています。

川名議員 県道鴨川保田線 保田町の井原地区では、道路の幅員が狭く、安全で円滑な交通を確保するため、0.7m幅の現道拡幅事業を実施しており、これまでに、保田側の0.4m幅区間を供用しています。

初のESG債に反響

川名議員 「ESG」とは環境、社会、企業統治の頭文字で、これらに配慮することで持続可能な経営に取り組むことを指し、近年はこうした社会の形成に向けた取り組みに関心が高まる中、地方債市場においても、ESG債を発行する自治体が増えている。

川名議員 通常の地方債に比べ低い金利でも選ばれるという部分は、今後の資金調達についても有効性が高いと思われるので、今後、継続的な発行、資金の活用も含め、しっかりと精査をお願いします。

SDGs推進に効果

川名議員 県道鴨川保田線 保田町の井原地区では、道路の幅員が狭く、安全で円滑な交通を確保するため、0.7m幅の現道拡幅事業を実施しており、これまでに、保田側の0.4m幅区間を供用しています。

川名議員 県道鴨川保田線 保田町の井原地区では、道路の幅員が狭く、安全で円滑な交通を確保するため、0.7m幅の現道拡幅事業を実施しており、これまでに、保田側の0.4m幅区間を供用しています。

川名議員 県道鴨川保田線 保田町の井原地区では、道路の幅員が狭く、安全で円滑な交通を確保するため、0.7m幅の現道拡幅事業を実施しており、これまでに、保田側の0.4m幅区間を供用しています。